

# 三心を磨く

学校だより NO. 38  
平成30年10月10日(水)発行  
須坂市立東中学校  
文責：金井勝久(教頭)  
<http://www.azuma-school.ed.jp/>

## 10月の校長講話「渡り鳥のV字飛行」

10月も月上旬を過ぎ、日が暮れるのがとても早く感じる季節になりました。感動の東祭から10日あまりが過ぎました。みなさんの心の中には、今、どんな余韻が残っているのでしょうか。

私は閉祭式でも話しましたが、音楽会で、3年生が見事に歌い上げた学年合唱「ヒカリ」が、半年後に中学校を巣立っていく不安と希望をかかえた自分へのメッセージとして響き渡り、これから自分が進むべき道を模索している姿が、熱く心に残っています。2年生、1年生も素晴らしい合唱を響かせてくれました。年々と全体の合唱のレベルが上がってきており「小さな学校の大きな合唱」が実現しつつあることを、本当にうれしく思います。また、本部会の役員をはじめ、



全校のみなさんが各委員会での仕事に本当に責任をもって熱心に取り組んでいる姿が、とても印象的でした。そして、サルビアチーム、コスモスチームの縦割りチームによる取組も、大変素晴らしいものでした。チャレンジランキングの盛大な応援合戦、一致団結して勝利を収めようとする姿は、中学生らしい澁刺とした姿であり、3年生が1・2年生の後輩をリードして戦う、素晴らしい姿がありました。このように、全校生徒が心をつにし、精一杯、生徒会スローガンを具現化しようとした姿に、心から拍手を贈りたいと思います。2日間の感動が、そして半年間の苦労が凝縮されたあの瞬間、東中学校生徒全員が強い絆でしっかりと結ばれており、まさに「全校の輪、前進の先」であったと思います。

10月2日のお昼の放送で、生徒会長の下条君から次のような話がありました。「これからは、3年生から2年生へ生徒会がバトンタッチされます。生徒会は、会長や委員長たちだけでは回りません。2年生全員で引き継ぐことを意識しましょう。1年生は来年先輩になります。自分のことだけでなく、周りを見られるようにしましょう」この下条生徒会長の言葉は、まさに「全校の輪」の次に来る「全進の先」を表しています。昨年もお話ししましたが、全員で創り上げることは、大変なことです。しかし、とても素晴らしく、素敵なことです。一人では自分に甘えてしまい、途中で投げ出してしまうことも多いのに、みんなと一緒にならできてしまう。質の良い集団をめざしていくと、そこには時として思いがけない力が生まれることがあります。一人では決して行けない世界を見ることが出来ます。一人一人が、自分の所属する集団をよくしようという気持ちに包まれたとき、実はそれは自分のためにもなっていくことを忘れてはなりません。良い集団は誰かが創ってくれるものではありません。自分が創る一員であることを忘れないでください。まさに、自分が創る物語です。

さて今日は、「全進の先」にかかわらせて、渡り鳥の話をしてしたいと思います。みなさんは「渡り鳥」というと、どんな鳥を思い浮かべますか。長野県で有名な渡り鳥というと、毎年、安曇野の犀川ダム湖に渡って来るハクチョウでしょうか。ハクチョウは、秋になると寒さが厳しく、大地が雪

と氷でおおわれてしまい、食べ物がなくなってしまうシベリア地方から、5千キロメートルの距離を飛んできます。そして、冬の間を日本で過ごし、春になるとまたシベリアに戻っていく冬鳥です。

その飛び方を見ると、一羽だけで飛んでいる渡り鳥はいません。数十羽、数百羽の群れを作り、V字型に隊列を組んで飛んでいきます。みなさんも、「渡り鳥」がV字型の隊列を組んで飛んでいくのを、見たことがあるのではないのでしょうか。

この「V字型の隊列」には、訳があるそうです。つまり、V字型になって飛ぶことにより、一羽で飛ぶより少ない力で飛べるのだそうです。それは、先頭を飛ぶ鳥によって翼端渦（よくたんうず）と呼ばれる渦ができ、その結果、吹き上げられる力が、斜め後方に起こり、後に続く鳥のエネルギーの節約になって、一羽で飛ぶ時と比べると4割くらい力とぶとすることができるのです。

当然のことながら、先頭を切って飛んでいるのはリーダーに当たる鳥で、一番空気の抵抗を受けることになります。そのすぐ後ろを飛ぶと、空気の抵抗が少なくなって飛びやすくなります。三番目に後ろを飛ぶと、さらに飛びやすくなります。こうやって、力の強い鳥が弱いものを守りながら飛んでいます。V字型で飛行することは、仲間の渡り鳥、全てがより高く遠くへ飛ぶためなのです。先頭の鳥も、最後尾につくこともあります。長い距離を一番きつい所で飛び続けることはできません。疲れてくると先頭を譲り、これを繰り返すことで、



すべての鳥が目的地に到達できるように協力していることです。ハクチョウは、シベリアから5千キロメートルという長い距離を飛ばなくてはなりません。助け合わなくては生きていけないことを知っているのです。もし一羽の仲間がけがや疲労のため脱落し群れから離れると、複数のハクチョウが手助けするため、一緒に地上に降ります。けがや疲労の回復を待って他の群れに加わったり、自分たちで新たな群れをつくってもとの群れを目指したりします。

渡り鳥の先頭をきって飛ぶ鳥は、みなさんの学級や学年、縦割りチーム、学校に置き換えたら、誰になりますか。担任の先生ですか。学級長ですか。チームリーダーですか。先ほど話したように、先頭を飛ぶ鳥は、随時交代しながら目的地へと飛んでいきます。決して一羽では、5千キロメートルという長い距離を飛ぶことはできません。2学期の始業式でも話しましたが、東中学校のDNAは「全員参加、全員協力」です。どんなに力のあるリーダーがいても、リーダー一人では目的を達成することはできません。みなさんの学級は、学年は、どのようにまとめれば、一人も脱落することなく飛び続けることができるのでしょうか。平成30年度の後半を始めるにあたり、下条生徒会長の「全進の先」考えてみてください。

最後に、3年生のみなさんは、明日「市内卒業学年親善音楽会」がありますが、みなさんにお願いです。他の中学校に比べ、本校は人数の少ない学校です。他の中学校のことは気にせず「今までの自分たちの合唱で、今日が一番良かった」と、自分で言える合唱にできるように頑張ってください。決して競争することはありません。東中学校の3年生としての、これ以上ない自分たちの「小さな学校の大きな合唱」を創ってください。私も、一緒にメセナホールの座席で「ヒカリ」を歌わせていただきます。頑張ってください。

◇◇ お知らせ ◇◇ 12日(金)の13時40分より、本校体育館において「メセナの風」コンサートが行われます。ヴァイオリンやヴィオラ、チェロ、ハーブによる演奏会、よろしければ起こしてください(入場無料です)